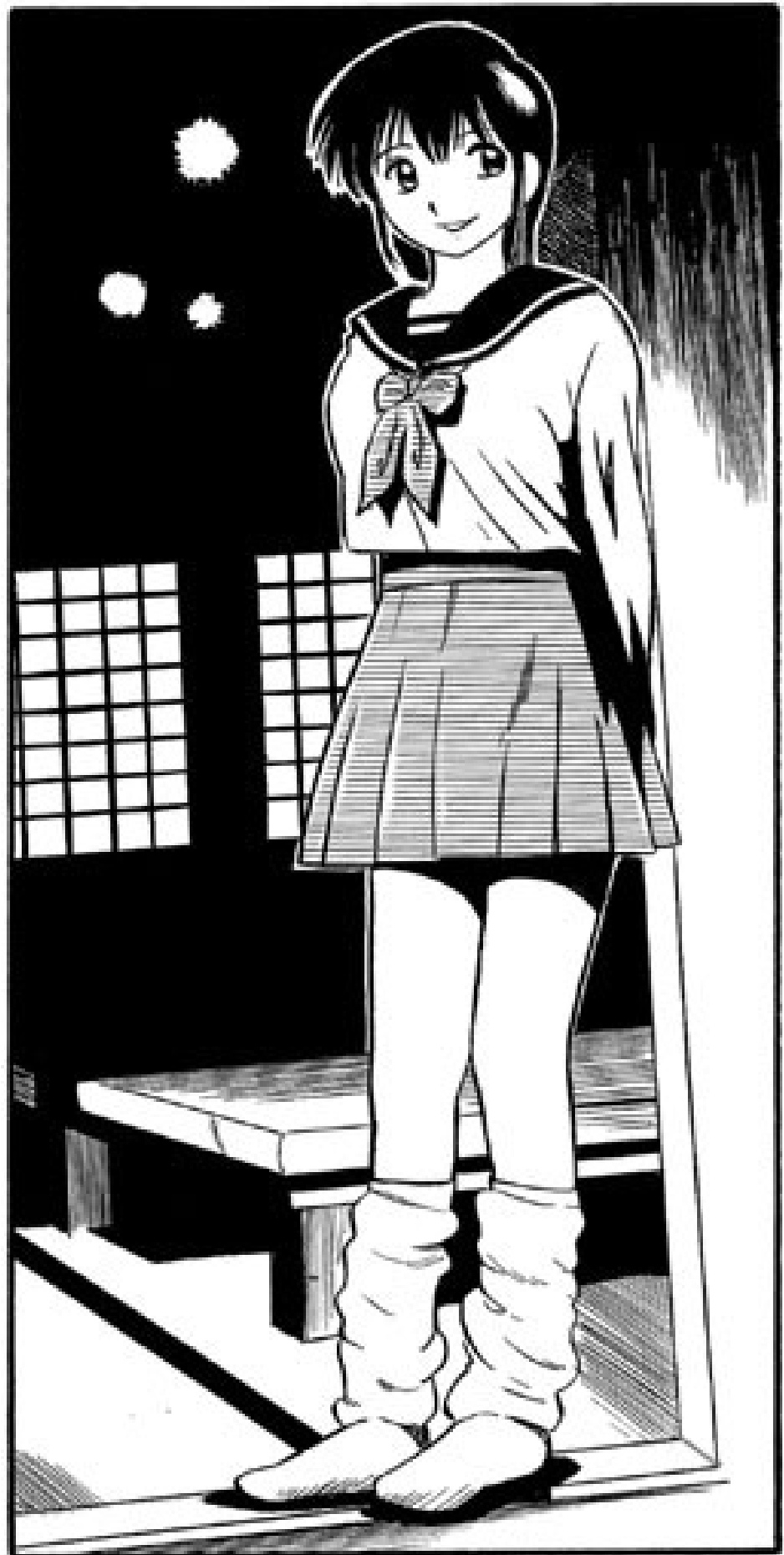


妹 日 和

(前編)



烏賊松

俺が小三の時

両親が
離婚した

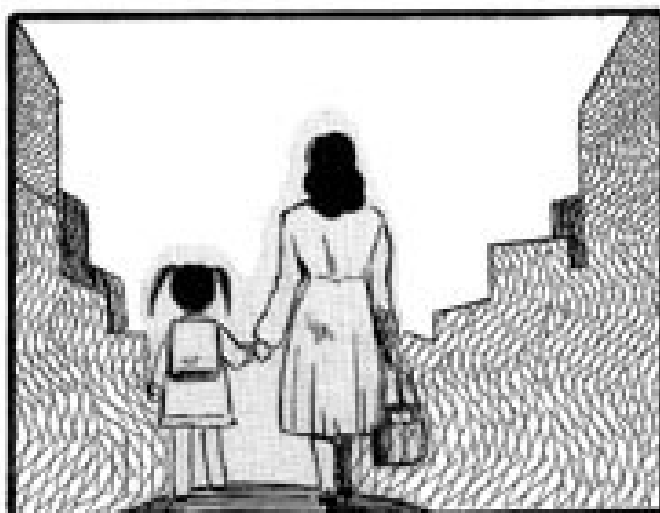
俺は父親に…

一歳下の妹マナは
母親にそれぞれ
引き取られる事
になった

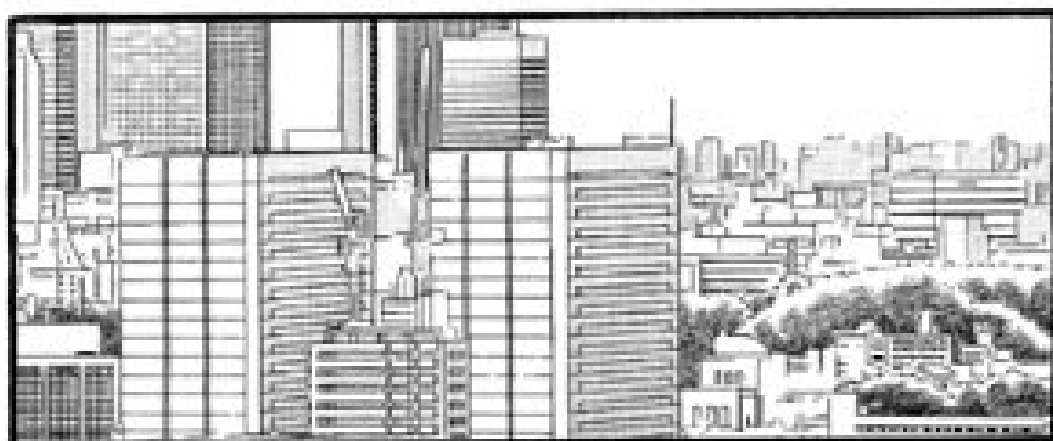


別々に暮らすように
なっても
お袋や妹のマナとは
月一くらいで会っていたが

お互いの家が
かなり離れていたという
事もあり
一年もしない内に
会う事もなくなっ
ていた……



しかし
両親が離婚して
6年目のある日





俺の知らない所で
どうしてそうなった
のかはよく分からな
かった



でもまあ
色々大人の事情が
あったんだろう

何はともあれ
一度は離れ離れになった
家族が



めでたく6年振りに
ひとつの屋根の下で
暮らす事になった訳だ

しかし
何もかもが
あの頃と同じように
戻った訳じゃなかった



俺に取って
6年前との
一番の違いは



妹の
マナだった



6年振りに再会した
マナは俺の記憶の中の
マナとはまるで違って
いた



昔の面影は全く無くて
何て言うか...その...



メツチャ
カワイくなつて
いた

そして家族4人で
再び一緒に暮らし始めて
一週間――

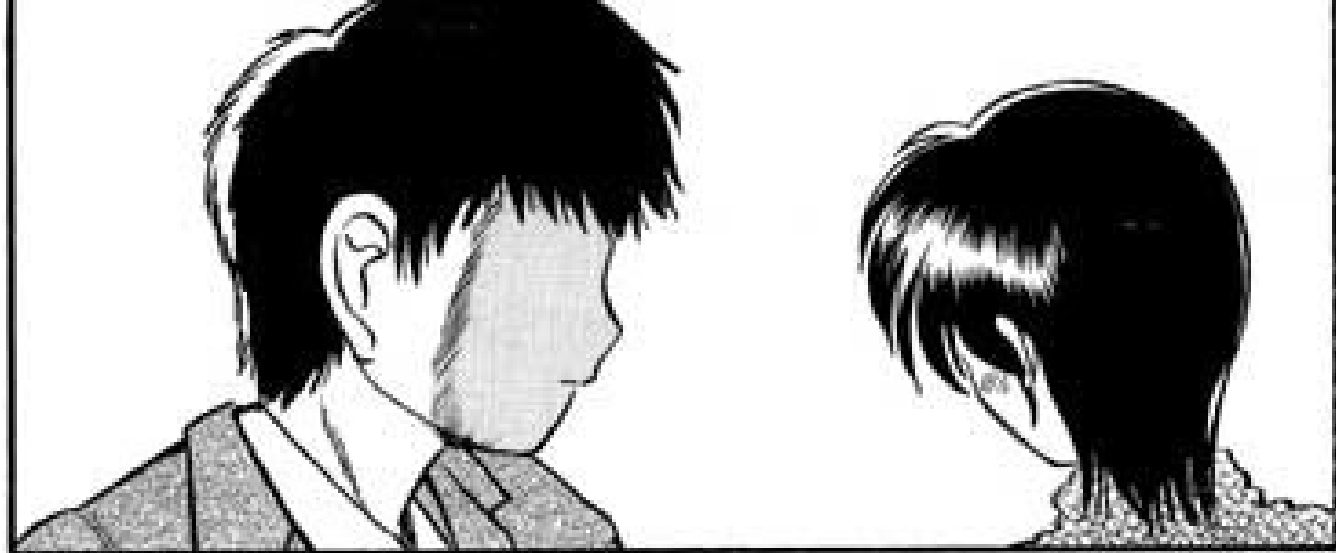


俺はマナと
まだ一言も言葉を
交わしていなかった

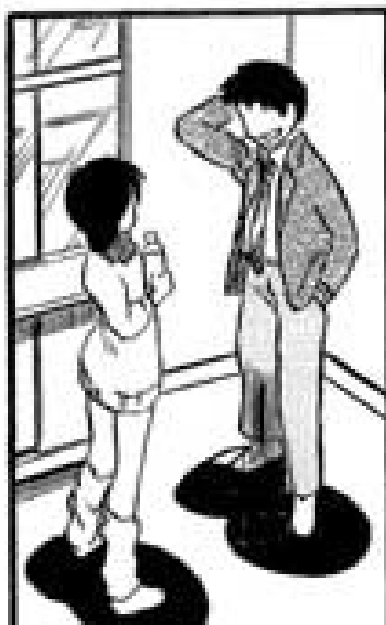








同居し始めて
一週間——
マナが俺と一度も
会話をしなかった
のは別に俺を避け
ていたからでは
なく



照れくささと
緊張で
何を話せばいいのか
分からなかったから
らしい.....

それは
俺も同じ
だった

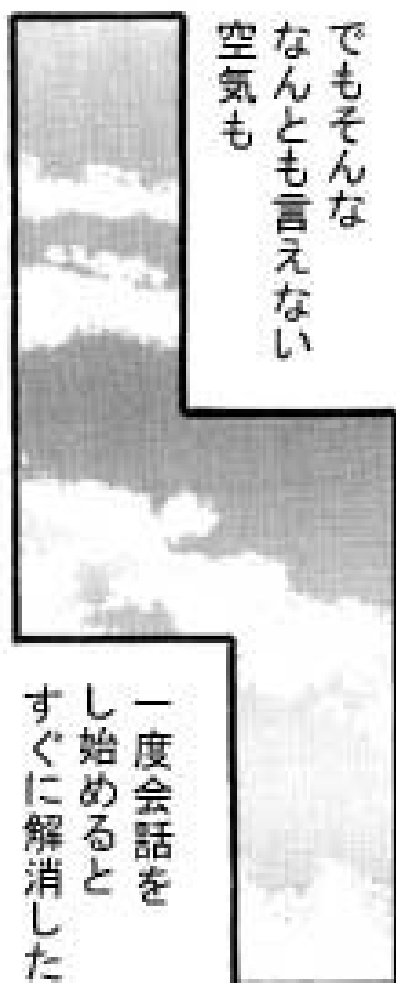


いくら血のつながった
兄妹とはいっても
一番多感な時期に
6年間も会わなかった
のだ

お互い
戸惑うのが
当たり前って
モノだ



でもそんな
なんとも言えない
空気も



家が小さいため
ひとつの部屋を
共有していた俺たちは



一度会話を
し始めると
すぐに解消した



明らかに
普通の兄妹以上に
仲が良くなり
毎日のように部屋で
ゲームをしたりして
遊ぶようになって
いった

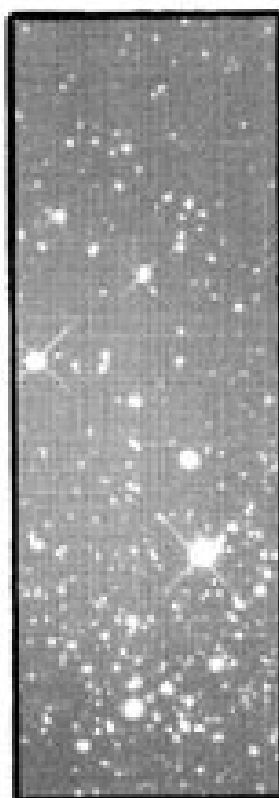
マナに対して
「妹」という感覚が
全く芽生えなかった俺は



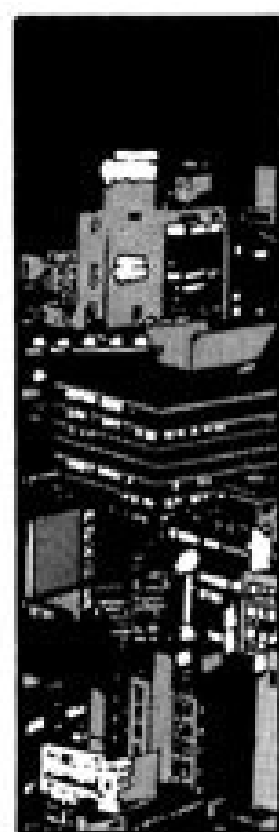
一人のカワイイ女の子と
毎日一緒にいられる
という状況が嬉しくて
楽しくて仕方がなかった



だから
当然のように
カノジヨも作らな
かったし



高校最初の
クリスマスも
家でのおんびり
過ごすつもりでいた







妹日和 (後編)



烏賊松

両親が離婚して
5年間離ればなれに
なっていた
俺と妹のマナ

妹のマナは

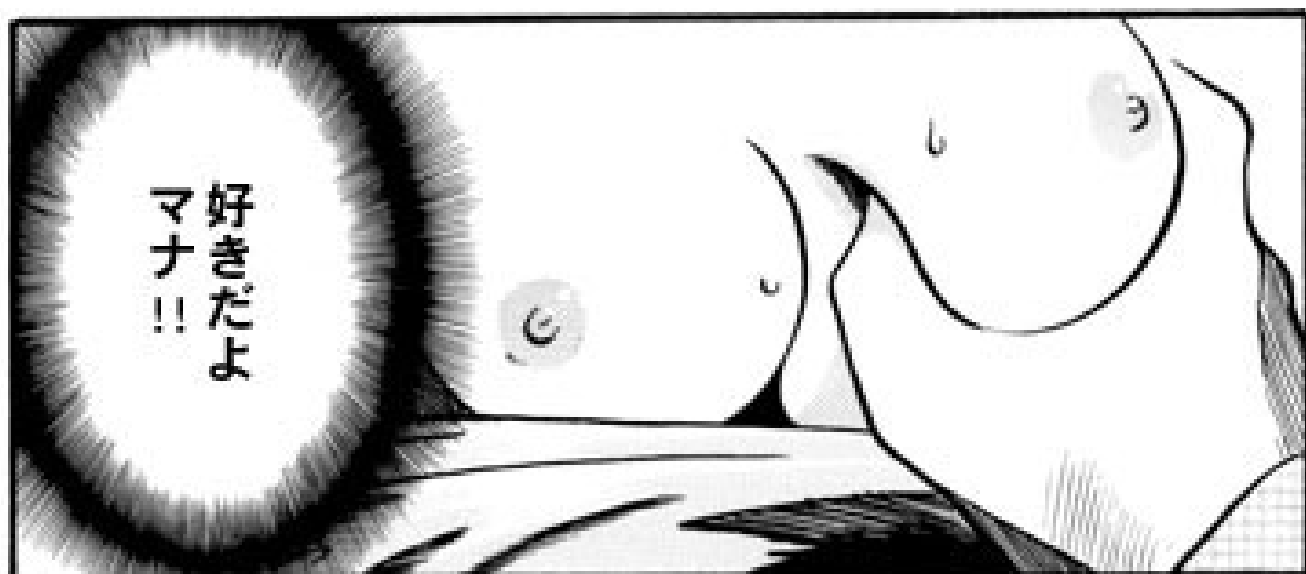
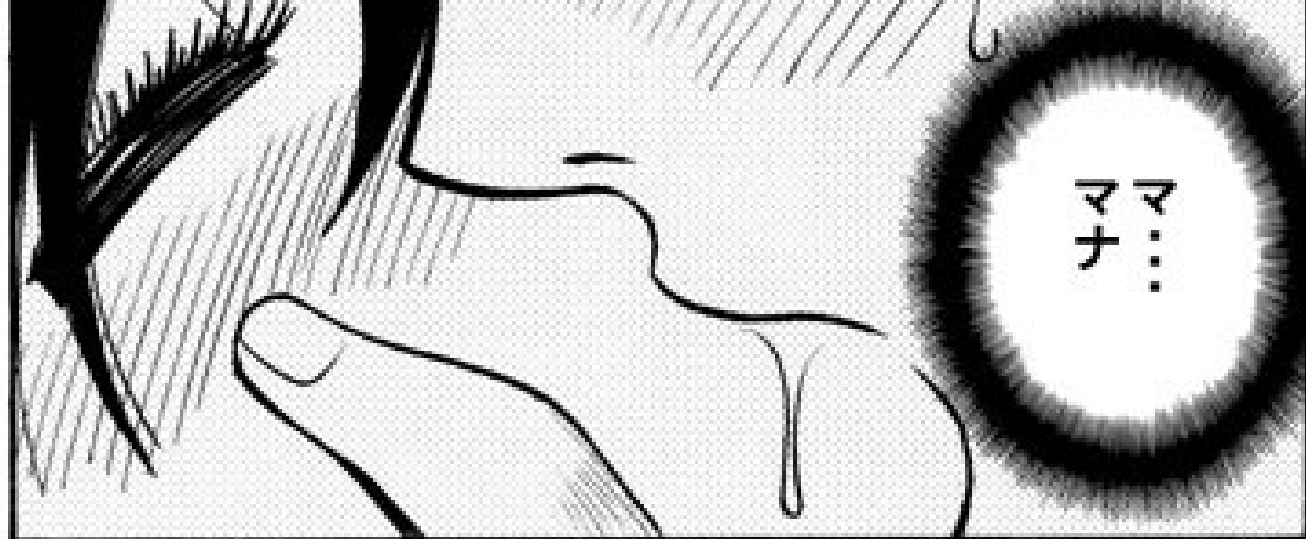
両親の再婚を機に
家族4人が再び
同じ家で暮らす事
になったが

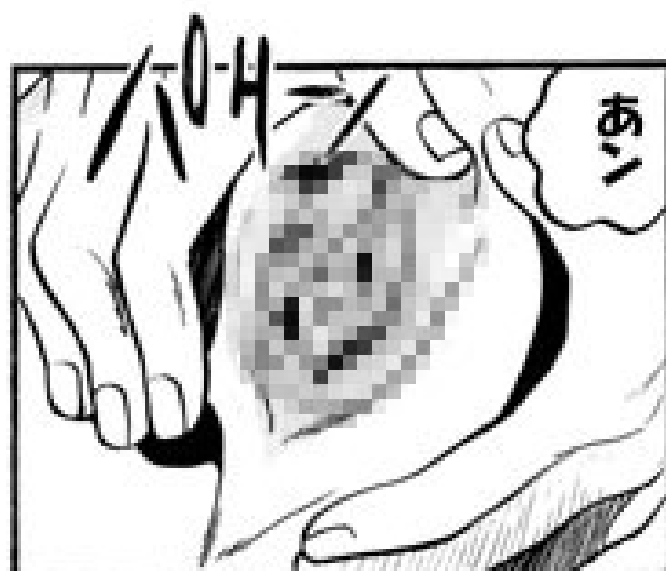
もう
5年前の
俺の知ってるマナ
ではなくなっていた



















実の妹とのセックスにも
罪悪感や背徳感みたいな
モノは一切なく
本当の恋人同士のような
感じだった

この目を境に

俺たちは

普通の恋人同士の
ようにデートを
したり

週に何度も
セックスをする
ようになった

ただ……

俺の方からマナに
手を出しておいて

何を今更……
と思われるかも
しれないが

この先もマナと
こんな関係を
続けていって
良いものかどうか

結構本気で
悩んでいる

でも目先の快樂に
流され続けている

ダメな
兄貴です……